

社会はいかに記憶するか

ポール・コナトン著

国家や民族など社会集団の記憶について考察した書。著者は身体的動作を再生産する能力を得るための「習慣の記憶」に着目する。政府や宗教団体によつて“反復”される記念式典や儀式、さらには日常の身振りやテーブルマナーにまで至り、記憶すべき過去が人々の身体に刻み込まれる過程を描く。今回の地震や

津波の記憶も人々にどう刻印されるのか。意味の運搬者として身体を捉えると、社会や政治の見え方が変わつてくる。芦刈美紀子訳。（新曜社・2500円）